

8月1日(木)「学級・学校の心理的安全性を考える」

講師：上越教育大学教職大学院 学校教育専攻科教授 赤坂真二先生

「学び易く居心地のいい学級の設計図 ―授業分析の学級経営視点の検討―」というテーマで講演をしてくださいました。冒頭は「教育効果を上げるには」どうすればよいのかということでした。どんなによい授業を用意しても、きちんと機能していない学級には効果は出にくいということです。だからこそ学級経営をする意味があるのだとお話いただきました。



学習環境を整備、つまり健康な学級経営を行うための学級で愛着形成の3基地機能(安全基地、安心基地、探索基地)について、授業の質と集団の質は往還して教育活動の質を高めるということ、「落ち着いたクラス」づくりをするためには型(基礎・基本)を作ることが大切だということなど、学級経営を実践していく上での知識を理論化して分かりやすくお話いただきました。また、教師と児童との間には「ルールの確立」(縦糸の関係)と「リレーションの確立」(横糸の関係)があり、縦糸の関係は学級が安定するためには欠かせないが、学級経営では子どもと保護者との心のつながりも大切であるため横糸が十分条件であり、縦糸指導3、横糸指導7くらいがバランスがよいとお話もありました。まずは一人ひとりと



目を合わせて「おはよう」「来てくれてうれしいよ」「会いたかったよ」とあいさつして、関係をつくっていくことを大切にしていける必要があると感じました。

お話のテンポが軽快であることもあって、あっという間の90分間でした。赤坂先生のお話に笑ったり隣の方と談笑したりしながら、充実した時間をもつことができました。

## 参加者のみなさんの感想

- ・子どもとの関係づくりをしっかりと行うことで授業の質を上げることができるというお話がとても印象に残りました。
- ・子どもの思いを受け取りながら、こちら側の思いも子ども達に届けることで信頼関係が生まれ、子どもどうしの中にも信頼関係が生まれるのではないかと気づくことができました。
- ・教室は心の安定が必要だけれど、それが全員でなくても8割方の子どもたちがそう感じればいいのではないかとわれ、少しホッとしました。それが一人ずつ増やしていければよいと思いました。
- ・川崎で赤坂先生のご講演を聞いたこと大変嬉しかったです。子供たち同士の「つながり」を大切によりよい学級集団をつくっていきたいです。